

道徳だより 「清明 (せいめい)」 第5号

令和7年10月9日発行

美川中学校道徳係

先日、道徳を通して地域とのつながりを深めるために、山本農園の山本洋平さんをお招きし、ゲストティーチャーとして1年生全クラスの授業に参加していただきました。「未来のふるさとについて考える」をテーマに、山本さんのこれまでの経験やふるさとに対する思いなどを通して、子どもたちは自分の生き方について深く考えることができました。今回は、その時の授業の様子をお伝えします。

○山本さんを招いてのゲスト道徳授業（1年1組・2組・3組）

＜内容項目＞ **C 集団や社会との関わり 郷土を愛する態度**

＜教材名＞ 「ぼくのふるさと」



＜あらすじ＞

「ぼく」の住む岐阜県串原村は、住民の約3割が高齢者というお年寄りの多い村である。

「ぼく」は、息子夫婦と離れて生まれ育った串原村に独り住まいをするおばあさんに、将来の自分と両親の姿を重ね、大人になってもこの村で生活し、家族と一緒に住みたいと考えている。

また、「ぼく」は家族のような付き合いができる、みんなが協力して村作りをしている串原村が好きだと言い、将来は村で働いて村の発展のために努力したいと考えている。

- ＜発問＞ 1 「ぼく」が大人になっても串原村で働き、村の発展のために努力していきたいと考えたのはどうしてだろう
2 将来、あなたはふるさとに残りたいと思うか
3 「大切なふるさと」の未来はどんな姿であってほしいだろう



＜授業の様子＞



＜生徒のワークシートより＞

- ・山本さんの話を聞いて、PTAなどの地域に関わる仕事をやっていきたいと思った。
- ・山本さんの話を聞いて、自分を犠牲にしないで、自分の好きなことや得意なことを生かしてふるさとを支えていきたいと思った。
- ・ふるさとは大事にしたいけど、「自分が何かしよう」とは思えない所が難しいと思った。
- ・ふるさとを盛り上げることも大切だけど、やはり都会に出て自分の可能性を試したいと思った。でも、時々戻ってきて、美川を大切にしたいと思った。
- ・将来美川に残るのか、まだ分からぬいけれど、美川の伝統や祭り、自然を守るために行事に参加してふるさとを大切にしたい。
- ・今日の授業で、ふるさとのためにいろんな事をやってくれている人がいることが分かった。
- ・未来のふるさとは、今まであって欲しい。ふるさとにある思い出が一つでも思い出せるようになっていて欲しいと思った。